

花職人  
**脊戸 潤子**  
SETO JUNKO

★勤務先／(有)田島生花店  
稲生町18-5 ☎0176-23-8783

『私はモノをつくる人です。  
フラワーデザインを通して自己表現や  
色んな人の想いを、もっと表現したいのです。』



「思えば、自分で進みたい方向はちゃんと見えていたのかもかもしれません。」と、しみじみ語る脊戸さん。花屋に生まれ、大好きな花に囲まれて育った彼女だが、『花屋になれたのはこれまでに会った人達あってこそ』と振り返る。

創業者の祖母の薦めもあり、高校卒業後、花キューピットが運営する新設のJFTD学園日本フラワーカレッジに入学した。『あの頃は開校第1期生ということもあり、色んな意味で大変でしたが、周りは花屋の二代目・三代目ばかり。そんな環境が将来のことをぼんやりと考えるきっかけになったのかもかもしれませんね。』

講師の一人に日本のフラワーアーティストの第一人者、松田隆作氏がいた。その松田氏のスタジオレッスンに通い、脊戸さんは、フラワーアートの世界にのめりこんでいった。同時に、ギフトとしての花にも興味を持ち、JFTD学園卒業後は、都内の百貨店や生花店で修行を重ね、20代前半にして数々の



全国大会出品作品



松田氏のレッスンでの作品

全国大会出場権を得るなど、どんどん頭角を現していった。その実績が認められ、恩師の松田氏が95年カナダで開催された「Today's Garden」に招待された際には、松田氏の右腕として参加しその才能を発揮した。

これら数々の修行を終え、十和田に戻ってきてからも、田島生花店のフラワーデザイン担当として、更にそのセンスと技術を磨いた。

ところで、遠方へ花を送るシステムとして有名な花キューピットの全国共通のカタログに、脊戸さんが手がけた作品が数点掲載されている。昨年からは脊戸さんは花キューピットの開発チームのスタッフに選任されているため、33歳での選任は異例の抜擢というから、地方にあってもこの快挙。すごい。

『作品を作るのに葛藤する時期もありましたが、花を通して色んな出会いがあり、それが私の財産になったし、活力源になっています。お花にはその時々人の気持ちに乗せて大事な人へ伝えてくれる力があります。』

例えば、今日はチョットいい出来事があったから、あの人にも一輪のお花をあげて『嬉しい』のおすそ分けをしたいな。誕生日だから。元気になってほしいから。癒されたいから…。

そんなとっておきの心を応援できる仕事に携われることがとても嬉しい。」

お店の仕事だけでなく、フラワーアレンジ教室もスタートした。さらに、東京での花キューピットの会議にも出席し、そして、当中央商店街の名物チラシ「街時間」でもその奇才ぶりを発揮し毎回大好評を得ている。そんな超多忙の彼女だが、よく笑い、よく食べ、よく呑み…。バイタリティがあって笑顔が爽やか。話をしていると、お花をみているように元気がもたれる女性だ。

切花ちょこっと知識



クリスマスに  
お花を  
飾りたいけど  
長もちしないし…  
という方に、必見です!!

×300のテーブルにバラと桜、お正月の玄関に松とバラ、など。どのシチュエーションでも素敵に演出してくれるバラ。なのに日もちしないから…と悩んでいる方、いませんか!? 肝心なのはバクテリアによるぬめりを取り除くことです。花瓶はマメに洗い、ぬめりにならないように気をつけましょう。そして、切り口を新しく。なるべく空気にさらさないよう、水の中で切ってあげると良いですよ。バクテリアは切り口や傷口から繁殖するため、茎がぬめりしていれば茎もきれいに洗ってあげてください。また、花屋などで売っている延命剤は特に効果的です。今は色々な色や花びら、型のバラが多くてまわっています。

たった1本でもお部屋が明るくなりますよ。お楽しみ下さい。この季節、暖房の風や熱風が直接当たらない場所に置くのも大事なコツです。





# タクシードライバー 成田 留美子

NARITA RUMIKO

★勤務先／十和田タクシー(株)  
稲生町18-34 ☎0176-23-3155

『いろんな出会いがあって…  
毎日がシナリオの無いドラマです!』

「本当は事務員で入社したのよ。」と話す成田さんは女性タクシードライバー無事故無違反16年のプロ。「これからは女性もタクシー業界に進出しなきゃ」と社長にススメられていること。一般から貸切観光と遠くは仙台までの往復70キロの日帰りもあったというから驚き!「疲れませんか?」の問いに「全然!疲れないわよ。そのかわり洗車して自宅に着いたらバタンキューね。」いろんなお客様がタクシーを利用します。観光客から芸能人そして病院送迎など…。貸切観光では青森空港受けが多く、十和田湖はもちろん田沢湖や山形の出羽三山や最上川の舟下りなど、東北6県の観光地を走ります。もちろん案内も必要なのでガイドもするからドライバーと添乗員と二役をこなします。

男鹿半島に向かっていた時、八郎潟の干拓地で菜の花がキレイでお客様と感動しているうちに道に迷い冷汗をかいたこともありました。

妊婦を病院へ…危うく産まれそうになったその子は今年小学5年生。会うたびに「運転手さん!あの時の子よー」と声をかけられるとちよつと嬉しい気分。また、病院で小学校の恩師と再会した時「30年前のあの子が…」と泣かれてしまったり。他にもたくさんあるけど「東京都庁まで」には参りました。「市役所ですか」と聞いても「都庁」と言いつつ、40分の押し問答でしたが、結局市役所で良かったんだけどね。なかには千円札の裏に電話番号を書いて渡された時もありました。病院から「五戸まで」というから向かうと相坂あたりで「どこへ行くの!!」と怒鳴られてよく聞いたら五戸行きのバス停までだった。日本語はむずかしいワ(汗)。でも一番の思い出は、『車イスの花嫁』の著者、鈴木ひとみさん(モデル生活から交通事故で下半身不随

の車イス生活)が乗車した時のこと。「人生は辛さや苦しさを避けて生きるより何事にも向かっていく生き方が楽しいわよ。」と言われた言葉が忘れられない。

『いろんな出会いがあって、毎日がシナリオの無いドラマのような日々だけど、始めたばかりの頃は男社会でうまくやっていけるか、まわりの人達にどう思われているの不安で色々悩んだんですけど、他社の女性ドライバーから『成田さんが道筋をつけてくれたから私もやろうと思った』と言われますがやっぱりなくっちゃ!!と思うのです。」と、そしてご利用いただいているお客様に感謝を込めてありがとうございます。と。市内を走る成田さんを見かけたらエールを送ってくださいね。



## タクシーちよこつと話

あなたはどんな時にタクシーを利用しますか? 私たちを目的の地まで連れて行ってくれるタクシーは、夜となく昼となく時間を守り、かつ安全運転でさまざまなお客様を乗せて走っています。時には学校で具合が悪くなった子供を病院送迎もあります。もちろん、先生と保護者の連絡がしっかり取れればのこと。

また、「この辺りで観光したいのですが…」と訪れる県外のお客様があれば、「やっぱり十和田湖ですよ。」と話す十和田タクシー代表取締役田中宏一さん。電話の対応の合い間に笑顔で答えてくれました。そして、「意外と知られていないのが『タクシーパトロール隊』ですね。十和田地区タクシー防犯交通協会に加盟しているから、子供と地域の安全を守る役目もあるんですよ。」とつけ加えてお話ししてくれました。

最後に用途に応じたタクシーを紹介していただきました。

### プランに合わせて自由に選択



小人数向きのエコノミータイプ・定員でご利用になればお安く楽しめるのが魅力です。

**小型**  
お客様4名まで

車種は快適なクラウンです。ゆったり気分でVIPの旅を満喫してください。



**中型**  
お客様5名まで



気の合った仲間同士のグループ旅行に最適です。お安い料金で大きな満足。

**ジャンボ**  
お客様9名まで